

2020年度水資源の有効活用のための研究開発等補助事業

世界の人口増加とともに、水不足、水環境汚染、温暖化にともなう雨量の減少・偏在等による弊害が地球規模で問題となっている。このような状況から、水の循環再利用を進めるとともに、廃水・廃液・水処理汚泥の適切な処理・処分が求められていて、これらの分野における先進国である我が国の造水・水処理関連技術が注目されている。

また、産業の基礎資源として重要な工業用水分野においても、水需給の逼迫や、年々強化される排水の水質規制値に対する今後の対応を考えると、産業廃水・廃液・汚泥のリサイクル及び資源回収をはじめとする水処理関連の廃棄物処理技術の開発についても緊急の課題となっている。

本事業は、水処理、水使用合理化及び水の循環再利用を通して循環型社会の構築に資するものであり、その技術の進歩・向上により、今後の機械産業及び社会の発展に貢献しようとするものである。また、廃水の再生利用、海水淡水化等の造水・水処理関連技術の進歩・向上を図ることにより、機械工業における水処理関連技術のレベルアップに寄与するものとする。

<事業内容>

1. 国内外における下・排水再生利用の実用例普及促進セミナー

本事業は、令和元年度に、下・排水関係の水再利用について、国内外、各種の再生技術、再生関連の基準類、再生水処理技術会社のリストなどを網羅的に収集作成した「国内外における下・排水再利用の実用例」を広く一般にも広めるために実施するものである。

当初の計画は、「国内外における下・排水再生利用の実用例」普及セミナーを東京及び大阪の2会場で開催する予定であったが、今般の新型コロナウイルスの影響で、両会場ともに参加者を集めてセミナーを開催することは、ウイルス感染防止、参加者の安全・安心を考慮する上で困難であると判断されたため、計画変更の承認を得て、Web上でのセミナー開催に変更して、令和3年2月10日から19日の間で、6テーマ（講師7名）による動画配信を行い、約240名の登録者があり、延べ約1,360名の方に聴講いただき、成功裡に終了し、予想以上の普及効果が得られた。

◇主催：一般財団法人造水促進センター

◇日時：令和3年2月10日（水）13：00～
2月19日（金）17：00迄

◇会場：Web上

◇講演：

No	時間 (分)	講演題目、講演者
1	30	「下水道資源の地域循環とイノベーション」 ・ 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 特任准教授 加藤 裕之
2	30	「世界における下廃水再利用の最新情報」 ・ 京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター教授 田中 宏明
3	30	「造水関連における国際標準化の最新情報と再生水における オゾン処理技術のオゾン処理技術の ISO 規格」 ・ 一般財団法人造水促進センター技術部長 中村 裕紀 ・ 特定非営利活動法人 日本オゾン協会 安永 望
4	30	「浸漬型中空糸膜モジュールを用いた下水/産業排水の再生利用」 ・ 三菱ケミカル株式会社 分離・アクアケミカル事業部 技術グループマネジャー 小林 真澄
5	30	「水資源問題の解決に貢献する（再生水供給サービス）」 ・ 栗田工業株式会社ソリューション推進本部 技術部門 ウォーターソリューション推進部部長 育野 望
6	30	「自律分散型水インフラの開発」 ・ WOTA 株式会社取締役/CTO 奥寺 昇平

<予想される事業実施効果>

「国内外における下・排水再生利用の実用例」に関して、再生水を利用する立場の観点から、多くの実用例、業界の最新情報を得ることは水処理に関連する企業のビジネスチャンスが増えていく可能性が増していくことで、水処理装置及び環境装置等造水関連機械の導入が増加し、機械振興に寄与することが予想される。さらには、世界的な課題である持続可能性指標（SDGs）への会社の貢献の一助になることが予想される。

<本事業により作成した印刷物等>

2019年度国内外における下・排水再生利用の実用例
普及促進セミナー報告書

130部